

談話室

「土地のことをよく知ってもらおう。そう考えていて、思い付いたのがクイズです」。飯山市豊田の戸狩温泉スキー場周辺で28日にあった「第3回戸狩温泉とんだいらトレイル駅伝大会」。出場者は、同スキー場の今冬の営業開始日などを尋ねるクイズに答えながら山道を走った。1問間違えるごとにタイムに3分が加わるため、観光パンフレットなどで予習する。「その過程で、別の季節にも戸狩温泉に行ってみようと思ってくれるのでは、と期待するのです」



飯山のトレイル駅伝大会を発案
NPO法人代表理事
矢口 正武さん(65)

戸狩温泉 走って考える

10年近く前までトリアスロンを楽しむ、現在は東京を拠点に、地方が元気になる催しを企画するNPO法人の代表理事を務める。戸狩温泉スキー場の支配人に地域の活性化策を考えてほしいと頼まれ、2010年に大会を発案した。

一帯の環境保全や大会のコース整備の費用に充てる基金創設も提案。コースを管理する地元の有志が基金をつくり、大会参加費の一部などを積み立てている。「戸狩温泉の大会は、よそにはない特色があります。広く知られ、訪れる人が増えればうれしいです」。東京都渋谷区在住。

クイズ答えながら

飯山の山道で駅伝

戸狩温泉スキー場周辺

クイズに答えながら山道をリレーし、誤答するとタイムに3分を加える「戸狩温泉とんだいらトレイル駅伝大会」が28日、飯山市の戸狩温泉ス



5キロの周回コースを4人が1

記念撮影をする駅伝大会出場者

周すつ走る高校生以上の部は15チームが出場した。

途中2カ所に、同スキー場の今冬の営業開始日などを尋ねるクイズコーナーがある。

最も早くゴールしたチームが3位となり、出場者は「最後まで分らないのが面白い」と話していた。

駅伝は小学生と中学生の部もあり、他に1人で約15キロを走る部門とウォーキング(約6キロ)を楽しむ部門があった。